

# 中施策評価書

作成日 令和元年 6月 19日

中施策事業名	市道等維持管理事務	部課名	経済建設部・土木課
		作成者	鈴木 英樹

①めざすまちの姿	07 道路環境がよく、歩行者も自転車も自動車も安全に通行することができる
②大施策	利用者が安心して通行できる道路環境をつくる
③中施策	利用者が安全で安心して通行できるように道路を整備・管理する
④中施策事業の対象	市民
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	安全安心に通行している
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路、橋梁及び公共用物の占用、承認工事に関すること</li> <li>・道路及び公共用物の維持修繕に関すること</li> <li>・定期及び春秋の土砂回収業務に関すること</li> <li>・橋梁の長寿命化計画及び実施に関すること</li> <li>・道路等の草刈業務に関すること</li> <li>・道路等照明施設の維持修繕に関すること</li> <li>・道路パトロールの実施並びに対応に関すること</li> </ul>

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
路面調査による舗装 修繕進捗率	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	20	40	60	80	90	95
	実績値	23	41				
単位	%						
	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度		決算額	決算額	予算額	
		平成29年度	平成30年度	平成31年度	
① 総事業費(a+b)		229,998千円	216,859千円		
人件費	a 事業費合計	217,138千円	216,859千円	247,954千円	
	正規職員	人数	2.2人	0人	
		b 金額	12,860千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	1人	0人	
		金額	865千円	0千円	
人件費合計		13,725千円	0千円		
② 補助金等(収入)		20,350千円	3,850千円	0千円	
③ コスト(①-②)		209,648千円	213,009千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		3,046円	3,095円		

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	老朽化により凸凹した道路舗装を修繕し、長寿命化計画に基づき橋梁定期点検を実施した。点検業務は県の単価改正に伴い委託費が安価となり、職員での実施が非効率であるため、引続き委託することとした。道路等の草刈を実施し、車両等の視認性を確保した。これらにより、道路利用者が安全で安心に通行できる道路環境の整備を行うことができた。
-----------------------------	---

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	要望対応に使用する費用と、道路管理者として計画的に実施していく舗装修繕等の費用を区別して執行していく。橋梁点検については策定済の個別施設計画を基に効率を考慮し委託することとする。豊明駅南北連絡橋は、改修工事実施のための点検等を行う。草刈等の道路維持管理については要望等の必要性、優先度を確実に把握し適正に実施していく。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	区長要望の実施を分割できるものは状況に応じて分割することとし、分割発注により各年度毎の費用の平準化を図るとともに、年度早期の発注によって発注時期による落札率の上昇を抑え、適正な人員の確保により品質の向上がきることが期待できる。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

# 中施策評価書

作成日 令和元年 6月 19日

中施策事業名	交通安全施設管理・整備事業	部課名	経済建設部・土木課
		作成者	鈴木 英樹

①めざすまちの姿	07 道路環境がよく、歩行者も自転車も自動車も安全に通行することができる
②大施策	利用者が安心して通行できる道路環境をつくる
③中施策	利用者が安全で安心して通行できるように道路を整備・管理する
④中施策事業の対象	市民
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	安全安心に通行している
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全施設要望の事務に関すること</li> <li>交通安全施設の維持補修に関すること</li> </ul>

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
通学路安全プログラムによる交通安全施設整備実施率	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	100	100	100	100	100	100
	実績値	0	83				
単位	%						
	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度		決算額		決算額		予算額		
		平成29年度		平成30年度		平成31年度		
① 総事業費(a+b)		24,065千円		21,578千円				
人件費	a 事業費合計	21,142千円		21,578千円		23,100千円		
	正規職員	人数	0.5人		0人			
		b 金額	2,923千円		0千円			
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人		0人			
		金額	0千円		0千円			
人件費合計		2,923千円		0千円				
② 補助金等(収入)		0千円		0千円		0千円		
③ コスト(①-②)		24,065千円		21,578千円				
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		350円		314円				

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	やや改善が必要	△	B
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	各区長から提出される交通安全施設工事要望書に基づいて、通学路に該当する箇所を優先的に実施した。通学路交通安全プログラムによる要望箇所においても、緊急性に応じて順次遂行している。予算の範囲内で優先度に応じて実施しているため、目標に達することができなかった。
-----------------------------	---

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	通学路交通安全プログラムの確実な運用と園児等の移動経路における交差点等の安全点検を確実に実施するとともに、児童、園児等の安全を最優先として防護柵の設置等の必要な対策を早急を実施する。交通安全施設工事要望についても、通学路、事故発生状況等を考慮し優先度を確定できるルールを策定する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	多様化する事故の発生原因を考慮し、交通安全施設を継続的に整備していく。当該年度に実施に向けての具体的進展ができなかったが、道路付属物(交通安全施設)の台帳をデータベース化することにより効率かつ適切な管理を行っていく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

# 中施策評価書

作成日 令和元年 5月 28日

中施策事業名	道路新設改良事業	部課名	経済建設部・土木課
		作成者	鈴木 英樹

①めざすまちの姿	07 道路環境がよく、歩行者も自転車も自動車も安全に通行することができる
②大施策	利用者が安心して通行できる道路環境をつくる
③中施策	利用者が安全で安心して通行できるように道路を整備・管理する
④中施策事業の対象	市民
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	安心して通行できるよう道路が整備管理されている
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・道路工事（区長要望工事、管理者施工工事）の実施に関する事 ・道路、橋梁工事の調査及び設計施工に関する事 ・道路、橋梁工事の災害復旧に関する事 ・社会資本総合整備計画（道路局）に関する事 ・市町村土木補助事業に関する事 ・特定交通安全施設等整備計画に関する事

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
区長要望工事の採 択率	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	35	35	35	35	35	35
	実績値	46	49				
単位	%						
管理者施工	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	4	4	4	4	4	0
	実績値	6	0				
単位	箇所						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度		決算額	決算額	予算額	
		平成29年度	平成30年度	平成31年度	
① 総事業費(a+b)		142,259千円	141,199千円		
a	事業費合計	131,153千円	141,199千円	143,700千円	
	正規職員	人数	1.9人	0人	
		b金額	11,106千円	0千円	
	非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		11,106千円	0千円		
② 補助金等(収入)		17,509千円	16,930千円	49,000千円	
③ コスト(①-②)		124,750千円	124,269千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		1,813円	1,806円		

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	土木課における工事実施のための基本制度である区長要望制度の実施について、本年度は多くの要望を実施でき、目標を達成することができた。
-----------------------------	---

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	管理者施工地区として計画に策定している過去に実施した区画整理地内の地区に加えて、公団施工の地区については、施工後40年以上経過しており老朽化が著しく進んでおり対策が必要な状況となっている。区長からの要望も提出されており整備計画を策定する必要がある。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	整備計画に基づき、計画的に施工を実施する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	過去の採択状況を精査し、通学路に指定されているか、老朽化の度合、実施効果の度合、交通量、緊急性等を考慮しながら、吉池、三崎、大久伝、荒井各区の施工箇所を選定した。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	管理者施工地区に該当する区長あてに各区域内路線の施工順位の目安となる施工計画リストを通知し、それに基づき今後の整備を実施していくこととした。	

# 中施策評価書

作成日 令和元年 6月 19日

中施策事業名	街路樹管理事務	部課名	経済建設部・土木課
		作成者	鈴木 英樹

①めざすまちの姿	09 空気がきれいである
②大施策	きれいな空気を保全する
③中施策	緑の多い生活環境をつくる
④中施策事業の対象	市民
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	緑の多い生活環境となっている
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・街路樹の維持管理に関すること ・アダプトプログラムに関すること。

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
街路樹による要望等の件数	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	31	29	27	25	23	22
	実績値	40	56				
単位	件						
	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度		決算額	決算額	予算額	
		平成29年度	平成30年度	平成31年度	
① 総事業費(a+b)		35,542千円	31,590千円		
a	事業費合計	32,619千円	31,590千円	32,337千円	
	正規職員	人数	0.5人	0人	
		b金額	2,923千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		2,923千円	0千円		
② 補助金等(収入)		0千円	0千円	0千円	
③ コスト(①-②)		35,542千円	31,590千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		516円	459円		

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	街路樹の適正な剪定作業等の管理に努めているが、台風等の影響もあり要望件数は増加した。目標を達成できていないため今後も継続するとともに、交通の支障とならないよう、地域住民の負担を軽減できるように適正な管理を行っていく必要がある。
-----------------------------	---

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	巨大化した街路樹については、道路施設、道路管理地外への影響および安全性を考慮し、場合により伐採する。老朽化による枯れ、台風等の強風で倒伏により樹木の欠損している植樹樹に雑草等が繁茂している箇所もあるため、舗装する等の適正な管理を行う。街路樹剪定要望については、地域住民の意見・要望等を把握し、状況に応じた対応を行う。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	台風等の強風による倒伏を未然に防ぐため、街路樹を全数目視により点検し、腐朽等による倒伏対策を行う。「街路樹管理の基本的な考え方」に基づき継続的に管理していく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		



# 中施策評価書

作成日 令和元年 5月 28日

中施策事業名	農業環境保全事業（土木）	部課名	経済建設部・土木課
		作成者	鈴木 英樹

①めざすまちの姿	10 日常生活は自然に親しむことができると同時に生活に不自由のないコンパクトシティになっている
②大施策	自然を確保しながら生活に不自由のない街をつくる
③中施策	市民とともに緑が続く環境をつくる
④中施策事業の対象	農地（勅使水系）
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	広域的な活動による農地の保全管理
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・農地・水・環境保全対策事業に関すること

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
事業の達成率	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	76	77	78	79	80	81
	実績値	75	77				
単位							
	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度		決算額	決算額	予算額	
		平成29年度	平成30年度	平成31年度	
① 総事業費(a+b)		9,486千円	7,282千円		
a	事業費合計	6,563千円	7,282千円	7,500千円	
	正規職員	人数	0.5人	0人	
		b金額	2,923千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		2,923千円	0千円		
② 補助金等(収入)		5,991千円	5,327千円	5,250千円	
③ コスト(①-②)		3,495千円	1,955千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		51円	28円		

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>勅使水系環境保全の会における多面的機能支払交付金の活動がより効果的となるよう、定期的に役員会を開催し中間報告等を行い、現状を把握することにより、効果的な活動を促進することで目標を達成することができた。</p>
-----------------------------	---

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	毎年度の評価結果を踏まえて翌年度の活動内容を見直し、目標に向けた効果的な活動を促進する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	農業農村地域に存する排水路等については、設置後30年以上経過しており老朽化等による施設破損が発生している。施設の機能が適切に維持・発揮できるようにするため、長寿命化対策の地区計画を作成する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

# 中施策評価書

作成日 令和元年 5月 28日

中施策事業名	土地改良施設維持管理事業	部課名	経済建設部・土木課
		作成者	鈴木 英樹

①めざすまちの姿	32 市内に遊ぶ場所や働く場所があり、豊明市が潤っている
②大施策	地域の経済活動が盛んなまちをつくる
③中施策	産業の活性化を図る
④中施策事業の対象	農業者
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	農業施設の長寿命化を図ることで、安定した農業基盤の基もと農業を営むことができている
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・農業土木工事(区長要望工事、管理者施工工事)の実施に関する事 ・排水機の維持管理に関する事 ・維持管理適正化事業に関する事 ・単県事業(工事発注、申請書作成)に関する事 ・土地改良施設(ため池、用排水路)の維持管理に関する事 ・農業取水施設等の他自治体との調整に関する事

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
維持管理施設整備率	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	70	70	70	70	70	70
	実績値	70	70				
単位	%						
	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度		決算額	決算額	予算額	
		平成29年度	平成30年度	平成31年度	
① 総事業費(a+b)		52,290千円	43,343千円		
人件費	a 事業費合計	47,029千円	43,343千円	111,023千円	
	正規職員	人数	0.9人	0人	
		b 金額	5,261千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	9人	0人	
		金額	429千円	0千円	
人件費合計		5,690千円	0千円		
② 補助金等(収入)		24,273千円	11,637千円	37,900千円	
③ コスト(①-②)		28,017千円	31,706千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		407円	461円		

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	排水機場、用排水路等の土地改良施設に対して適切な時期に適切な内容で、維持管理をすることにより、施設の長寿命化を図る事業であるが、今年度は、水路改修、機器のオーバーホール等を行うことにより、目標を達成できた。
-----------------------------	---

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	排水機場・用排水路等の土地改良施設は、設置後30年以上経過している施設が数多くあり、今後更新していくには膨大なコストが必要となる。更新等修繕に係る費用を平準化を図り計画的な維持管理を行うための計画を策定する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	次年度以降も改善事項が継続できるように事務を行う。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	現況調査や機能診断を地元と協力しながら実施することができた。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		